

2027 年度版デザインと創造の業界動向調査分野別レポート

建築・ 土木エンジニアリング・ 建設

 AUTODESK

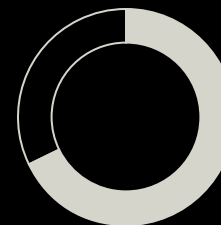
AEC の競争優位性は適応力へ

建築・土木エンジニアリング・建設業界（AEC）は、私たちを取り巻く建造環境を形成しています。この業界は、人々の暮らしや働き方に最も大きな影響を与えており、同時に、より少ないリソースでより多くの成果を求められるというプレッシャーにもさらされています。

『2027 年度版デザインと創造の業界動向調査』の調査データは、このプレッシャーの高まりを示しています。AEC 業界のリーダーの約 10 人に 7 人が、自らの業界は過去 25 年間と比べて、直近 3 年間で急速に進化したと回答しています。AI やデジタル技術を活用した業務遂行、オーナーの期待の変化、生産性向上への要求の高まりによって、プロジェクトの設計、遂行、管理の方法が変わりつつあります。

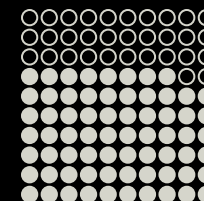
企業（教育機関や非営利組織を含む）は、それぞれ異なる方法で対応しています。建築・土木エンジニアリング・建設業界の各分野で優先事項は異なりますが、一つの共通した見解があります。AEC 業界のリーダーの 69% が、今後の成長はデジタル ツールの活用左右され则认为しています。一方で、自社のデジタル成熟度が高いと考える企業は 2 年前よりも減少しており、49% から 43% へと低下しています。このことは、デジタル技術そのものと同じ速さで、デジタル能力に対する期待値も変化していることを示しています。

先進的な企業は、偶然、変化に適応しているわけではありません。調査から、変化に対応し続けるために、これらの企業がどのような能力を構築しているのかが明らかになりました。



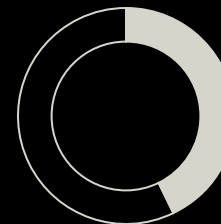
68%

AEC 業界は過去 25 年間と比べて、直近 3 年間で急激に進化したと回答した割合



69%

将来的な成長がデジタル ツールの活用左右され则认为した割合



43%

所属企業のデジタル成熟度が高いと回答した割合

業界内での立ち位置により 変化のスピードは異なる

デジタル トランスフォーメーションが AEC のあらゆる分野を変革する中、各企業は自社のビジネスの実情に応じた対応を行っています。エンジニアリング企業では AI やテクノロジーをより重視する一方、施工サービス企業では、コスト面や人材面での根強い課題への対応とデジタル投資とのバランスを取り続けています。こうした優先事項の違いは、成果にも表れています。デジタルト

ランスフォーメーションによって 50% 以上の生産性向上を実現したと回答した施工サービス企業は 52% であるのに対し、公益事業者やビルのオーナーでは 72 ~ 73% に達しています。これらの調査結果は、AEC の各企業は、それぞれ異なるビジネス上の優先事項や事業環境に対応する中で、異なるペースで変革を進めていることを示唆しています。

相違点だけでなく、共通点も重要です。AEC の全セグメントにわたって、リーダーは、デジタル能力が今後の競争力においてますます重要な役割を果たすと認識しています。もはや問われているのは、業界が変革するかどうかではなく、変化が加速し続ける中で、各企業がどのように適応していくかです。

"建設業界は、100 年以上にわたって、ほぼ同じ方法で事業を行ってきました。破壊的なイノベーションというよりも、数多くの段階的な改善を積み重ねてきたのです。デジタルへの移行に加え、エネルギー転換や環境への対応も進む中、変化のスピードは確実に速くなっています。そのため、私たちはイノベーションをこれまで以上に重視しています。"

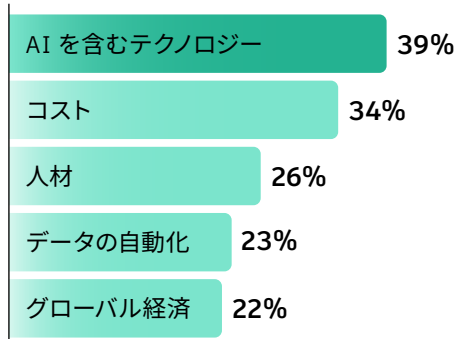
ISABELLE SPIEGEL 氏

VINCI (フランスのナンテールを拠点とするグローバル施工会社) 環境担当バイス プレジデント

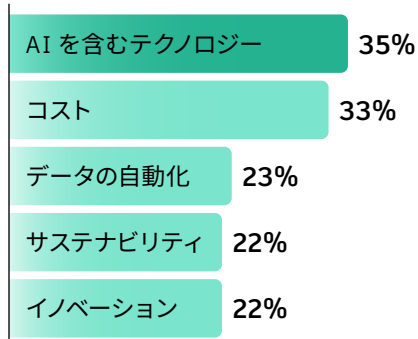
AEC リーダーの懸念事項では、テクノロジーとコストが上位を占める

建設業を除くすべての分野で、AI を含むテクノロジーが最大の課題となっている

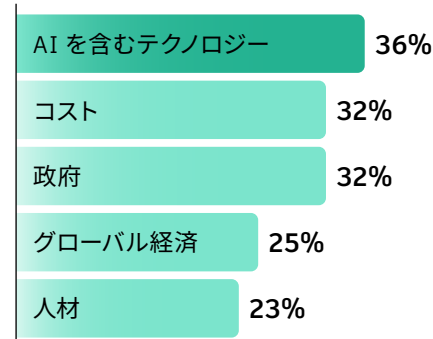
全体



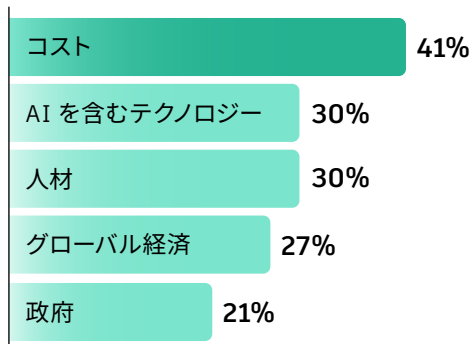
建築サービス



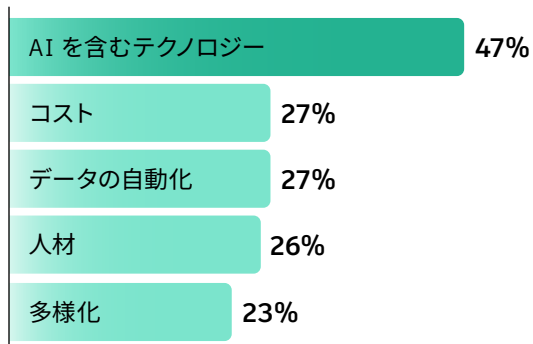
建造物のオーナー



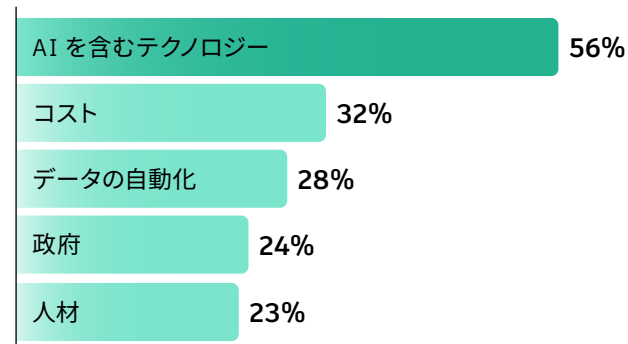
施工サービス



エンジニアリング サービス プロバイダー



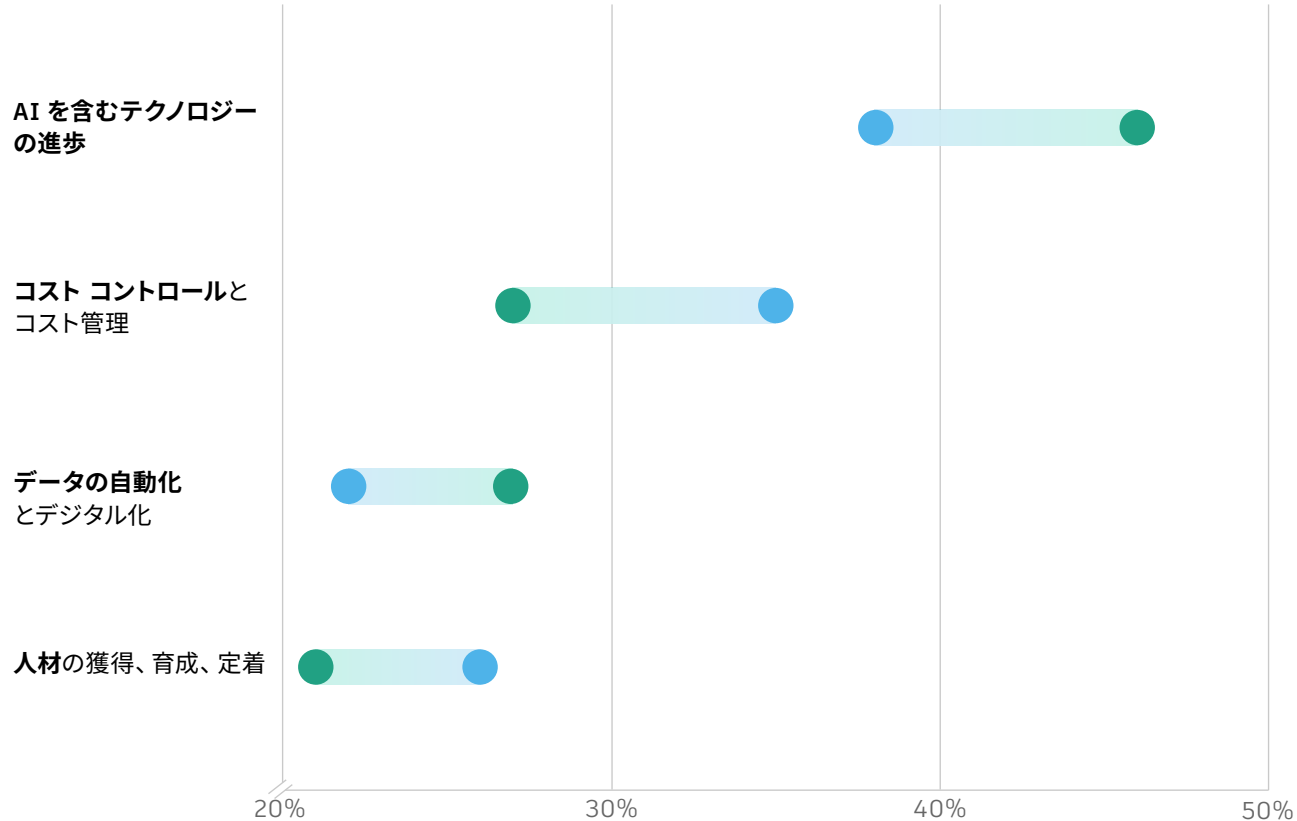
公共事業、通信事業



アンケートの質問：貴社または貴組織が現在直面している主な課題を 3 つ挙げてください。最大 3 つまで選択してください。数字は各項目を選択した回答者の割合です。13 個の選択肢から選んでください。

AEC のペースセッターが感じている課題は コストよりも AI への対応

● ペースセッター ● メインストリーム



アンケートの質問：貴社または貴組織が現在直面している主な課題を 3 つ挙げてください。最大 3 つまで選択してください。
数字は各項目を選択した回答者の割合です。13 個の選択肢から選んでください。"ペースセッター" の定義は、5 ページを参照してください。

AEC 業界の企業全般が同様の外部圧力に直面していますが、業績が最も好調な企業は、将来に備えるため、それぞれ異なる方法で対応しています。

一般的な企業と比較すると、ペースセッターは、AI の活用やデータの自動化を優先する傾向が顕著である一方、目先の業務上の制約を重視する傾向は弱くなっています。変化に対応するだけでなく、その中で前進するために必要な能力への投資を進めています。

ペースセッターとは

本調査の対象企業のうち 11% がペースセッターです。これは、デジタル成熟度、AI の導入、サステナビリティのいずれの面でも先行している企業です。ペースセッターは、業績と将来の課題に対する準備度の両方で、同業他社を上回ります。調査方法の詳細については、『2027 年度版デザインと創造の業界動向調査』レポートをご覧ください。

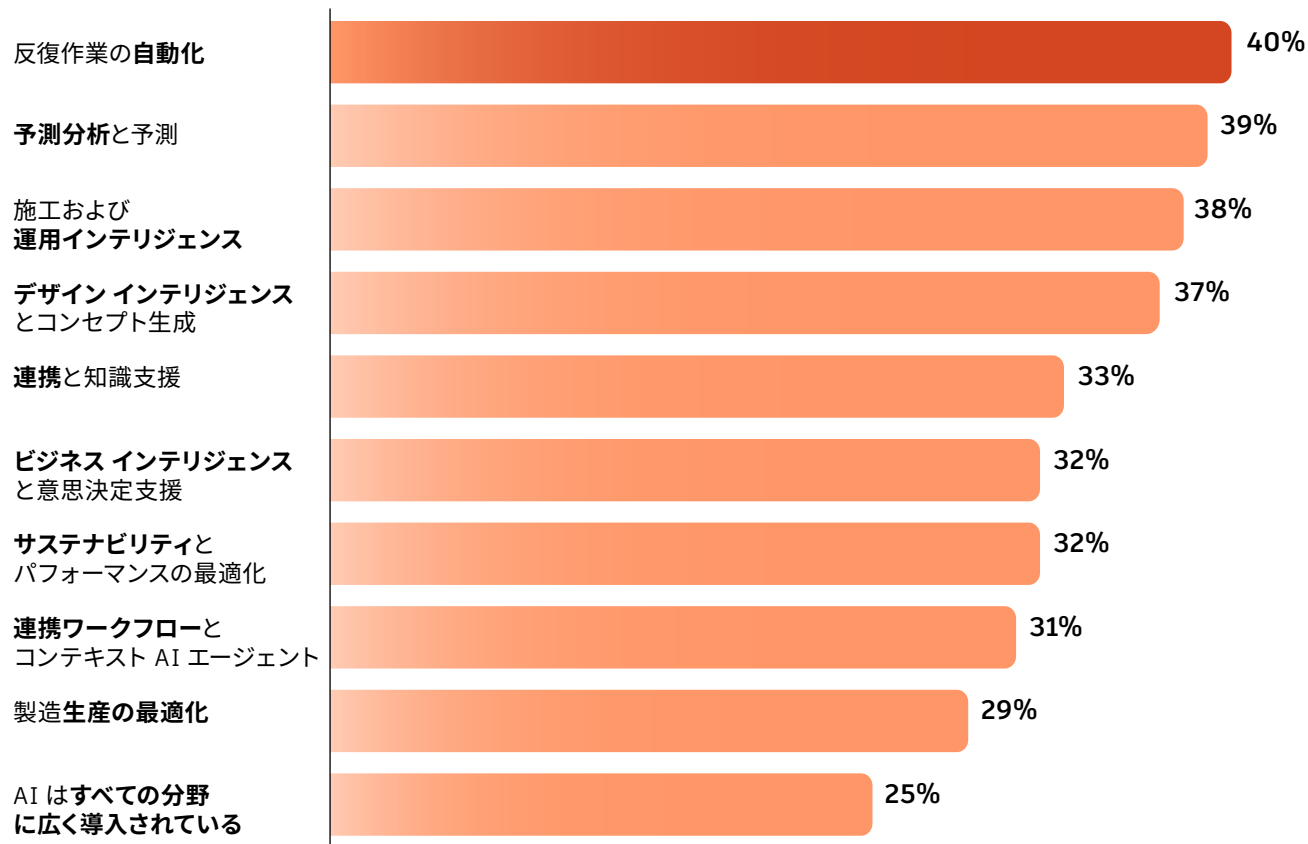
デジタル トランスフォーメーションが プロジェクト遂行を変革

AEC 全体で、デジタル トランスフォーメーションが計測可能なビジネス価値をもたらしています。過去 3 年間で、顧客満足度 (66%)、イノベーション (65%)、生産性 (63%) が大幅に向上したと回答したリーダーの割合は、およそ 2/3 に上ります。これは、デジタル ツールが単発のテクノロジー イニシアチブではなく、日々のプロジェクト遂行に組み込まれつつあることを示しています。

最大の変化は、何を提供するかという考え方にあるのかもしれませんが。オーナーがより標準化され、つながりのある、データリッチなアセットを求める中、デジタル能力は、設計や施工の段階だけでなく、アセットのライフサイクル全体を通じて不可欠になりつつあります。人、データ、ワークフローを連携させている企業は、こうした期待に応えながらプロジェクトの成果を改善するうえで、より優位な立場を築いています。



AEC における AI の用途は、業務運営とプロジェクト遂行のワークフローに集中している



アンケートの質問：貴社または貴組織では、現在どのようなユース ケースに人工知能（AI）を使用していますか。該当するものをすべて選択してください。
数字は各項目を選択した回答者の割合です。注：読みやすくするため、一部の回答選択肢を短縮しています。"その他" および "上記のいずれでもない" は示されていません。

AI は実験段階を超え、AEC のプロジェクト ライフサイクル全体で実用的なツールとして活用されるようになっていきます。企業は AI を活用して、反復作業の自動化、予測精度の向上、施工および運用に関するインテリジェンスの強化を図るとともに、チームがより迅速かつ十分な情報に基づいて意思決定できるよう支援しています。さらに、設計と施工をつなぐワークフローに AI を組み込む動きも、ますます広がっています。

導入の進行に伴い、AI への信頼も高まっています。過去 1 年間で、AEC 全体における AI への信頼は高まる一方、AI が業界に混乱をもたらすことへの懸念は低下しています。同時に、AI は、オーナーの期待の高まりに応じて企業がデータリッチなアセットを提供するうえでも役立ち、独立したテクノロジー イニシアチブではなく、より広範なデジタル トランスフォーメーションの一環として、その役割を強めています。

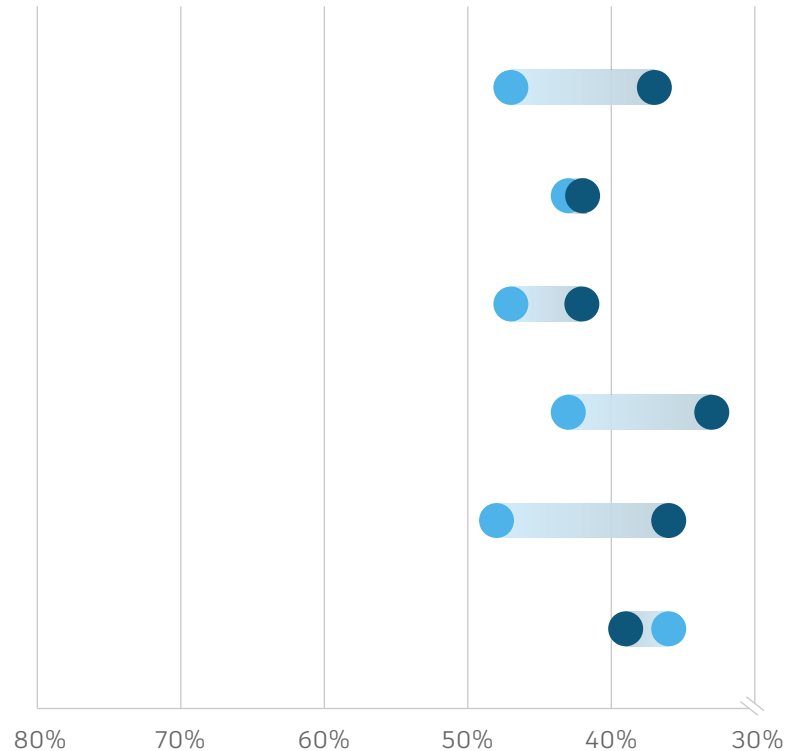
69%

AI テクノロジーを信頼している AEC 企業

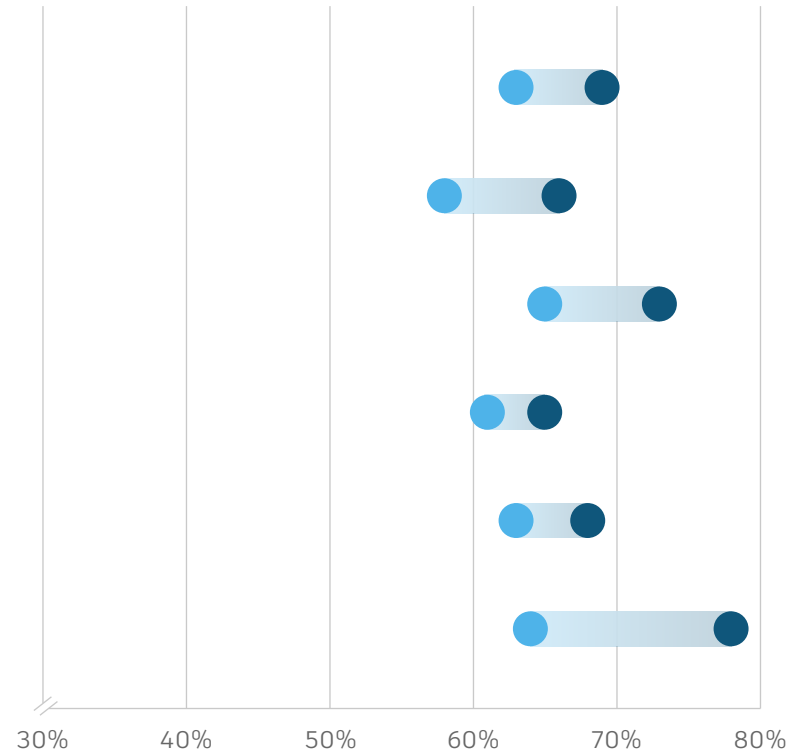
AEC 業界全般において、AI への懸念は和らぎつつあり、信頼感が高まっている

● 2025 ● 2027

AI は業界を不安定にする



業界で利用される AI テクノロジーを信頼している



アンケートの質問：ご自身の業界や自社における人工知能（AI）について考えたとき、次の記述にどの程度同意しますか。1. 業界で利用される AI テクノロジーを信頼している。2. AI は業界を不安定にするだろう。
5 段階評価。上位 2 項目 = "やや同意する" または "強く同意する"。

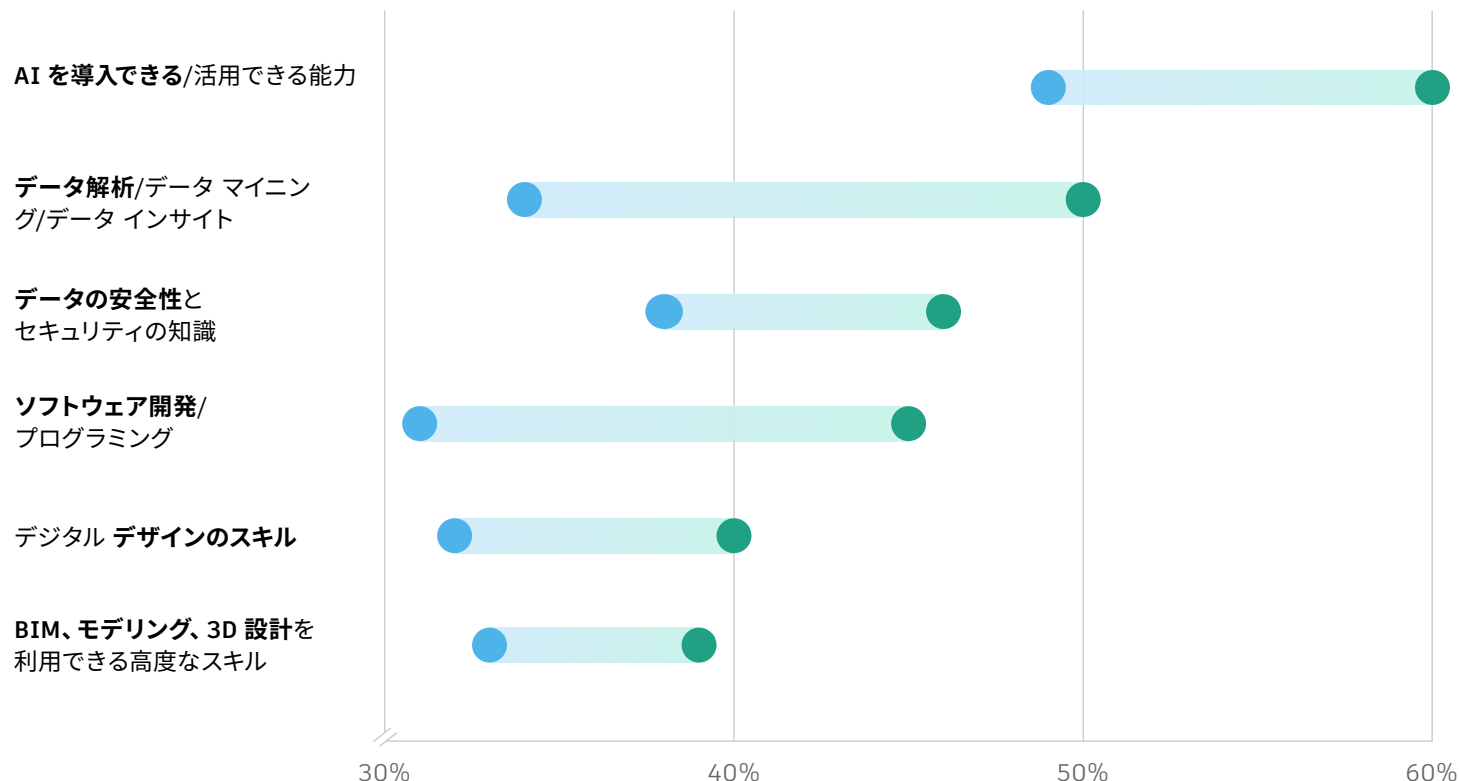
テクノロジーが急速に進化する中、企業が成功するためには、人材もそれに合わせて成長できるよう支援することが重要です。業界が過去 25 年間で比べて直近 3 年間で大きく変化する中、企業は人材の採用、育成、支援のあり方を見直しています。

AI スキルは現在、AEC で最も求められている技術スキルとなっており、データ セキュリティ、データ分析、BIM および 3D 設計の専門知識がそれに続いています。ペースセッターは、これを基盤として、データ分析、ソフトウェア開発、デジタル デザインなど、より幅広いデジタル スキルセットを重視しています。これは、デジタル能力を単一の専門領域ではなく、相互に補完し合うスキルの組み合わせとして捉えていることを示唆しています。同時に、68% のリーダーが、サステナビリティへの取り組みが人材の獲得と定着に役立つと回答しています。これは、長期的な成功に向けて最も有利な立場にある企業が、デジタル能力だけでなく、それを活用できる人材への投資も進めていることを裏付けています。

AEC 業界のペースセッターの間で デジタル人材の採用がより広範に進んでいる

AEC 業界全体において、AI は採用における共通の優先事項

● ペースセッター ● メインストリーム



アンケートの質問：貴社または貴組織では、現在、採用時にどのような技術スキルまたはデジタル スキルを重視していますか。該当するものをすべて選択してください。数字は各項目を選択した回答者の割合です（複数回答可）。"ペースセッター" の定義は、5 ページを参照してください。



まとめ

AEC は今、単一のテクノロジーではなく、変化に適応する能力によって特徴づけられる新たな時代を迎えています。AI、デジタルによるプロジェクト遂行、オーナーの期待が進化を続ける中、企業は、能力の連携を構築することで、これから何が起こってもより適切に対応できる態勢を確保できるでしょう。

私たちがペースセッターと呼ぶ企業は、それが実際にどのようなものなのかを示す一例となっています。一般的な企業と比較すると、ペースセッターは、将来の成長がデジタル ツールにかかっていると考える傾向が強く (90% 対 67%)、AI を日常のワークフローに組み込む割合も高くなっています (60% 対 40%)。また、

AI に関するトレーニングへの投資 (56% 対 40%) や、採用時に AI (60% 対 49%) およびデータ分析 (50% 対 34%) を重視することについても、一般的な企業を上回っています。これらの企業は、単に新しいテクノロジーを導入しているだけではありません。テクノロジーを効果的に活用するために必要な能力を構築しています。

AEC のリーダーにとって、今回の調査から得られる最大の示唆はそこにあります。AI やデジタルトランスフォーメーションにただ投資すれば成功するわけではありません。業界が進化し続ける中で、継続的に学び、適応し、価値を提供できる企業を作ることが、成功を決めるのです。

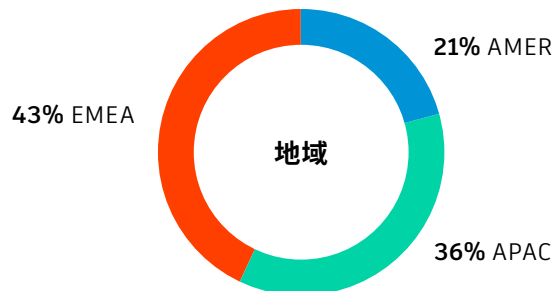
この分析について

この AEC 業界に関するブリーフィングは、オートデスクの『2027 年度版デザインと創造の業界動向調査』を基に作成されました。この調査は、建築・土木エンジニアリング・建設業界、公益事業、および関連業界のリーダーや専門家 2,056 人を対象としています。本書に示した調査結果は、AEC 業界に特有の傾向を表すものであり、この業界の調査対象者の背景を考慮して解釈される必要があります。ペースセッターは AEC 業界の回答者の 11% (n=227) を占め、残りの 89% はメインストリームの企業に分類されます。

"ペースセッター"、"デジタル成熟度"、"AI リーダー"、"サステナビリティ リーダー" の定義は、『2027 年度版デザインと創造の業界動向調査』レポートで使用されている定義と同じです。このブリーフィングの動向データの参照箇所では、『2026 年度版 AI 動向』の比較結果を引用しています。

AEC 業界の回答者プロフィール

- 31% 施工サービス
- 20% エンジニアリング
- 14% 建築設計
- 13% 公共事業、電気通信事業
- 9% 建造物のオーナー
- 6% 土木インフラストラクチャ
- 6% 石油・ガス
- 1% 鉱業



オートデスクについて

オートデスクは、デザインと創造の手法に変革をもたらしています。そのテクノロジーは、建築、エンジニアリング、建設、運用、製品設計、製造、メディア & エンターテインメントの各分野にわたり、大小を問わずさまざまな課題の解決に取り組む世界中のイノベーターを支援しています。環境に配慮した建物から、よりスマートな製品、さらに人々を魅了する大ヒット作まで、オートデスクのソフトウェアは、お客様がすべての人にとってより良い世界をデザインし、創造できるよう支援しています。詳細については、<https://www.autodesk.com/jp> をご覧になるか、オートデスクのソーシャル メディアをフォローしてください。

オートデスクへのお問い合わせ: 本調査レポートに関するご質問や、今後の調査プログラムに参加するための登録方法については、state.of.design.and.make@autodesk.com にお問い合わせください。

このレポートに記載されている情報は、お客様の便宜を図るために、一般的な情報を提供することのみを目的としています。オートデスクは、このレポートに記載されている情報、テキスト、グラフィック、リンクなどについて、正確性と完全性を表明することも保証することはありません。

また、このレポートに示されるいかなる意見についても、それに従った場合に特定の成果または結果を達成できることを保証するものではありません。

© 2026 Autodesk, Inc. All rights reserved.